

十世紀初までの日本各宗に於ける 新羅仏教の影響について

福 士 慈 稔

本稿は、「十二世紀末までの日本仏教に於ける新羅・高麗仏教の影響に関する研究」の基礎作業に於ける中間発表である。十二世紀末までの日本仏教各宗にみられる新羅・高麗仏教の影響を明らかにすることを目的とし、その準備として目録類の整理から十二世末までに日本に伝来されていた新羅・高麗諸師章疏の確認と、それらの章疏の各宗所蔵の確認からその重用度を推察しようとするものであるが、本稿は特に『大日本古文書－正倉院編年文書』『審詳請来経録』『華嚴宗章疏並因明録』『天台宗章疏』『三論宗章疏』『法相宗章疏』『律宗章疏』『山王院蔵書目録』という十世紀初までの目録を整理する。

一、『大日本古文書－正倉院編年文書』にみられる新羅章疏

（一）『大日本古文書－正倉院編年文書』

本稿で用いる『大日本古文書－正倉院編年文書』（以下『古文書』）は、東京大学史料編纂所が明治時代から編集・翻刻・刊行した『正倉院編年文書』を主体とする奈良時代の古文書集である。『古文書』を用いた研究は近年各方面で盛んに行われその成果が期待されるところである¹。しかしながら、『古文書』にみられる新羅諸師の著述の整理に関しては、石田茂作氏²と木本好信氏³の研究を凌ぐ研究は未だみられない。

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

さて筆者が石田氏と木本氏の研究を参照しながら『古文書』を再整理したところ、『古文書』中に新羅僧22師の著述が確認される。しかし、22師の著述の中で、円光『大方等如来蔵経私記』（古文書17巻136・139頁）、神昉『十輪経抄』（2-729、17-143）⁴⁴、義湘『一乘法界図』（8-539、17-144）、行達『瑜伽料簡』（2-356、8-449）、明晷『海印三昧論』（7-491、24-539）は著述名がみられるだけで作者名がみられず、著述と作者は後代の目録⁴⁵によって一致させたものである。よって『古文書』にみられる新羅僧は17師である。

著述は総数195部であるが、名前が確認される新羅僧でも、個々の著述で、例えば円測の著述と考えられる『六十一見章』（11-309）『六十二見章』（12-361、17-79）、玄一の『唯識枢要私記』（12-16、18-461）、義寂の『法花論述記』（12-541、17-108）（『法花経論述記』（17-98・101））『馬鳴生論疏』（3-86、17-140）、大衍の『大方等如来蔵経疏』（2-710、24-447）、大賢の『成業論記』（8-539、24-539）、元曉の『華嚴綱目』（11-428、12-379）を始めとする附設「十世紀初までの目録類にみられる新羅諸師章疏」において（ ）で括った27部も作者名が記されていないため後代の目録⁴⁶によってそれぞれの著述として推定したものである。また195部といっても、その数は『古文書』にみられる新羅諸師著述の異名同本を含めた総数であって、例えば円測の著述の場合、『因明疏』（11-452）『因明論疏』（7-489）『大因明論疏』（24-402）『因明正理門論疏』（8-533）『因明正理門論記』（17-106）、『心経疏』（7-491）『多心経疏』（9-384）『般若心経疏』（16-401）『摩訶般若経疏』（8-534）『摩訶般若波羅蜜多心経疏』（12-518）、『唯識疏』（7-27）『唯識測法師』（9-512）『円測師唯識疏』（10-158）『唯識論疏』（7-489）『唯識論円測師疏』（11-331）『唯識論測法師疏』（3-199）『成唯識論疏』（9-389）『成唯識論測法師疏』（3-33）がそれぞれ同本の可能性が高く、同じように元曉、憬興、智仁、道證、勝莊、義寂、大衍、玄隆の著述にも同様の傾向がみられる。慎重なる検討を要するが総数は大凡130部程度となる。

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

更に『古文書』では同じ作者の著述でも、異名同本の他に巻数の不同がみられる。またも円測の著述を例示すると『観所縁々論疏』の場合「観所縁々論疏一卷神郭師 又二卷圓測師」（12-55）「観所縁々論疏二卷一卷圓測述」（12-382）とあり、『成唯識論疏』の場合も「成唯識論疏十卷圓測師撰」（9-389）「成唯識論疏二部一部基法師撰十卷一部圓測師撰廿卷」（9-624）「成唯識論疏一部十六卷圓測師撰」（10-442）とある。その他の諸師の場合も同名本での巻数不同が多い。『古文書』自体の問題、つまり『古文書』が個々に発給された文書の集成であることが大きい、巻数不同の場合などは筆写のために貸し出しを請う際に不足の巻数のみを借り受ける場合もあり、一つ一つ検討する必要がある。しかし、断片的な書簡が多いため『古文書』のみの整理では解明が困難な場合が多いようである。

ともあれ『古文書』により当該年の8世紀中頃までに多くの新羅諸師の著述が日本に伝わっていたことは窺われるが、それ等の著述の中で、作者名が明記される著述は、断簡等を含めて円測3部、元曉11部、憬興1部、玄一1部、義寂1部、表員1部、大賢1部の19部^{*7}であり、後代の目録で著述と作者が一致する神昉1部、元曉5部、義湘1部、義寂1部、明暉1部の9部^{*8}を合しても現存は28部のみである。

（二）「審詳請来経録」

「審詳請来経録」は新たに『古文書』3・5・7・8・12・13・17巻にみられる審詳関係記事から審詳所持本を整理・推定したものである。審詳所持本に関しては既に堀池春峰氏や平岡定海氏の成果がある^{*9}が、今一度、新羅諸師の著述に限定して整理してみたのが附設の表である。審詳所持本167部の中で8師49部の著述が新羅諸師の著述として確認できる。但し、8師といっても審詳関係記事にみられる新羅諸師の名は、円測、元曉、義寂、大衍の4師だけである。円光、義湘、道證、玄一の4師の場合、著述のみの記録である。また著

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

述と名前が明記される4師も、円測の2部、元曉の19部、義寂の5部は『古文書』の当該箇所以外の記録及び後代の目録によって一致できるものである¹⁰。つまり名前と著述が明記されるものは新羅諸師の49部中19部にすぎないのである。これは新羅諸師の著述に限ったことではなく、中国諸師の著述にも見られる現象である。書名と作者名を重視する僧侶編纂の目録類とは異なり、『古文書』及び『古文書』内容詳関係記事は官吏による断片的な記録である。勿論、8世紀中頃に既に作者不明の著述があったことも考えられるが、記録の対象が作者名でなかったことは十分に考えられることである。

二、「五宗録」にみられる新羅章疏

「五宗録」とは914年に醍醐天皇の勅により円超等が奏進した『華嚴宗章疏並因明録』『天台宗章疏』『三論宗章疏』『法相宗章疏』『律宗章疏』のことである。以下に「五宗録」個々に収録されている新羅僧の著述を整理していくこととする。「五宗録」整理に際して大正新修大蔵經第55巻収録本をベースに、七寺所蔵本¹¹を対照させていくこととする。大正蔵収録本をベースとするのは七寺所蔵本の「五宗録」が『律宗章疏』全体を記録していないためである。

（一）『華嚴宗章疏並因明録』

大正蔵収録本『華嚴宗章疏並因明録』には収録部数に関して末尾に「已上百八十二部」とあるが、実際に収録しているのは188部である。七寺所蔵本『華嚴宗章疏並因明録』には収録部数が記されていないが収録は182部である。新羅諸師の著述は大正蔵収録本では9師25部、七寺所蔵本では9師23部である。この相違は、大正蔵収録本にみられる元曉の『華嚴經疏』と『華嚴綱目』が七寺所蔵本にみられないためである。ともあれ他師に比べて元曉著述の収録が多い。

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

尚、七寺所蔵本では「(入正理) 同論疏二卷 道隆撰」とあるが、『中国・日本經典章疏目録』の翻刻では誤写として「道證」とする。筆者も道證の著述としての『因明入正理論疏』が、『東域伝燈目録』及び『注進法相宗章疏』にみられるため翻刻に従う。

(二) 『天台宗章疏』

大正蔵収録本には「百八十一部」とあるが、実際には158部の収録である。七寺所蔵本には収録部数が記されていないが153部収録されている。尚、二本共に新羅諸師の著述はみられない。

(三) 『三論宗章疏』

大正蔵収録本には「已上六十九部」とあり69部収録され、七寺所蔵本には収録部数が記されていないが同じく69部収録されている。新羅諸師の著述は大正蔵収録本では3師7部、七寺所蔵本では3師8部である。この相違は、大正蔵収録本にみられない『中論疏』が七寺所蔵本に「中論疏六卷 元曉」として収録されているからである。元曉著述としての『中論疏』は初出である。『古文書』には「中論疏六卷 元庚師撰」（16-404・417）等とあるが元曉著述としての『中論疏』はみられない。また後代の目録では同じ七寺所蔵本『古聖教目録』のみにみられる著述である。

新羅諸師以外でも、大正蔵収録本に吉蔵著述としてみられる『法華統略三卷』・『法華遊意一卷』・『涅槃義疏二十卷』・『涅槃遊意一卷』が、七寺所蔵本では法蔵の著述となっていたり、収録部数は同じでも内容は若干異なっている。ともかくも新羅諸師の著述は大正蔵収録本では69部中7部、七寺所蔵本では69部中8部で、元曉の著述が他師に比べて多いのが特徴的である。

（四）『法相宗章疏』

両本共に収録部数が記されていないが、大正蔵収録本には169部、七寺所蔵本には171部収録されている。新羅諸師の著述は大正蔵収録本では11師41部、七寺所蔵本では9師40部である。この相違は、大正蔵収録本の「唯識要集十四巻道證述」が七寺所蔵本では「（唯識）同要集十四巻 道證撰」、「婆沙論疏十四巻淨達述」が「（婆沙）同論疏十四巻 淨達撰」とあり、また大正蔵収録本にみられないが七寺所蔵本には「楞伽經疏三巻 義寂」として義寂の著述として『楞伽經疏』を収録しているからである。「道證撰」及び「淨達撰」に関しては『中国・日本經典章疏目録』の翻刻で「道證」「淨達」の誤記であるとしており筆者も異論がない。しかし、義寂の『楞伽經疏』に関しては『古文書』に著者名無記の『楞伽經疏』がみられるが、後代の目録には同じ七寺所蔵本の『古聖教目録』にしかみられず¹²疑問が残る収録である。大正蔵収録本と七寺所蔵本では巻数の相違などがあり¹³、特に七寺所蔵本に誤写や間違いが多いようである。

ともあれ五宗録のなかで新羅諸師の著述を最も多く収録しているのが『法相宗章疏』である。また元曉の著述に偏する傾向がある他宗に比べ、円測9部、元曉9部、憬興7部、義寂6又は7部と元曉の著述と同じように諸師の著述を収録している。

（五）『律宗章疏』

大正蔵収録本『律宗章疏』では収録部数が記されていないが62部の収録である。その中で新羅諸師の著述は4師5部みられる。七寺所蔵本『律宗章疏』は全体で7部の収録しかみられず、その中に新羅諸師の著述はみられない。戒律関係の著述が多い大賢が1部だけの収録である。『古文書』に大賢の著述が2部しかみられないこともあり、伝来されていなかったことも可能性として若干

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

考えられる。しかしながら、元曉の戒律関係の著述は『古文書』にも多くみられるにも拘わらず、2部のみの収録である。律宗で新羅仏教への関心が希薄だったことも考えられる。

三、『山王院蔵書目録（顕教目録）』にみられる新羅章疏

『山王院蔵書目録』¹⁴は、佐藤哲英氏¹⁵によると延長三年（925）に撰述された延暦寺蔵書（見定）目録で、本来4部であったが現存は空恵記貞宗書の天台及び他家の典籍504点の目録（顕教書目録）と、同じく空恵記運猷書の密教関係の典籍586点の目録（密教書目録）とされる。現存の2部中、「密教書目録」には新羅僧の著述はみられないが、「顕教書目録」には収録504部中15部の新羅僧の著述がみられる。しかし、「顕教目録」には書名に続いて作者名を記していないものが多く、新羅僧の著述に関しても、作者名が記されているのは円測2部、元曉1部、勝莊1部、義寂2部の4師6部だけである。元曉の『法華宗要』『判比量論』『花嚴文義綱目』、憬興の『弥勒経疏』、義寂の『法花経験記』『法華論述記』、大賢の『梵網経古迹』2部『菩薩戒宗要』等4師9部の著述については作者名が記されていない。それ等を書名や巻数などによって、他の目録から比定して合すると6師15部の著述が収録されていることとなる。しかし、同名の著述が多いため、例えば「顕教書目録」[二二五]番の「華嚴文義綱目一卷」は法蔵著述か元曉著述かが推定もできず問題となる。

尚、筆者は以前から『天台宗章疏』に新羅諸師の著述が収録されていないことに疑問を抱いていた。何故ならば、最澄・蓮剛・円珍・安然の著述に元曉の『涅槃宗要』・『勝鬘経疏』・『本業経疏』・『楞伽経疏』・『金剛三昧経論』・『十門和諍論』などの引用が確認されるからである。ここで新羅諸師6師14部の収録がみられるが、天台宗諸師に引用された著述で目録にみられないものが依然多い。

四、小結

以上、『古文書』及び十世紀初までの目録から窺われることは、八世紀中頃までに新羅章疏が大凡130部ほど伝わっていたが、「五宗録」収録から考えられることは、全ての新羅章疏が奈良仏教界に影響を与えていたわけではないということである。これは以前筆者が整理確認した奈良・平安時代の各宗諸師の章疏にみられる新羅章疏の引用頻度・回数からすると意外な結果である。

註

- * 1 正倉院研究会での研究成果が『正倉院文書研究』（1-10号）として刊行され、宮内庁正倉院事務所編『正倉院古文書影印集成』によって影印本の確認ができる。またインターネット上では正倉院文書データベース作成委員会編の「正倉院文書データベース」が公開されていて翻刻並びに原本が確認できるようになっている。
- * 2 石田茂作『写経より見たる奈良朝仏教の研究』（東洋文庫、1930年）。特に同書附設「奈良朝現在一切経疏目録」が日本及び韓国の学界に与えた影響は大きいものがある。
- * 3 木本好信『奈良朝典籍所載仏書解説索引』（国書刊行会、1989年）は『大日本古文書—正倉院編年文書』にみられる經典・章疏を整理して索引としたもので実に有益である。
- * 4 神昉以下、著述記載の『古文書』該当巻頁は実際には二箇所以上あるが、煩を避けるために巻数の早いものと遅いもの2例のみ挙げた。
- * 5 円光『大方等如来蔵経私記』は『東域伝燈目録』、神昉『十輪經抄』は『法相宗章疏』、義湘『一乗法界図』は『新編諸宗教蔵總録』、行達『瑜伽料簡』は『東域伝燈目録』、明晶『海印三昧論』は『華嚴宗章疏并因明録』等によって確認される。
- * 6 円測の『六十二見章』は『法相宗章疏』で確認される。尚、『六十一見章』は『古文書』で確認される以外は目録類にはみられず誤記の可能性が高い。玄一の『唯識枢要私記』は『諸宗章疏目録』、義寂の『法花論述記』（『法花経論述記』）・『馬鳴生論疏』は『東域伝燈目録』、大衍の『大方等如来蔵経疏』は『古聖教目録』にみられるが『古文書』で確認できる『大方等如来経疏』と同本と考えられ、大賢の『成業論記』は『新編諸宗教蔵總録』大正蔵収録本で「成業論古述記一卷」

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について（福士）

とあるのが該当するものと考えられる。元暹の著述に関しては拙著『新羅元暹研究』（大東出版、2004年、138-146頁）を参照されたい。

- * 7 現存するものは円測『解深密經疏』『摩訶般若波羅蜜多心經疏』『仁王經疏』（『仁王般若經』）、憬興『金光明最勝王經略贊』、玄一『兩卷無量壽疏』（『無量壽經記（疏）』上卷存）、義寂『梵網經疏』（『梵網經菩薩戒本疏』）、表貝『華嚴文義要決』（『華嚴經文義要決問答』）、大賢『梵網經古述記』。尚、元暹の著述に関しては次註も含めて前掲拙著を参照されたい。
- * 8 神昉『十輪經抄』（『大乘大集地藏十輪經』序存）、義湘『一乘法界図』、義寂『法花經論述記』（上卷存）、明暲『海印三昧論』
- * 9 堀池春峰「華嚴經講説よりみた良弁と審詳」（『南都仏教』第31、1973年）末尾「大安寺審詳師經疏縁」、平岡定海「新羅の審詳の教学について」（『印度学仏教学研究』22-2、1972年）・『日本寺院史の研究-古代編』（吉川弘文館、1981年）
- * 10 円測の『般若心經疏』、元暹の『兩卷無量壽經宗旨』『菩薩本持犯要』『金鼓經疏』『金剛三昧論疏』『涅槃經宗要』『法華經要略』、義寂の『涅槃經綱目』『法花經料簡』『大般若經綱要』は『古文書』の審詳関係文書以外で作者名が確認できる。更に元暹の『一道義』は『一道義章』（11-567）及び『一道章』（11-566）、『二障章』は『二郭章』（12-381）及び『二障義章』（11-567）に該当するものと考えられる。
- * 11 『一切經論律章疏集（伝縁）並私記』（『中国・日本經典章疏目録』七寺古逸經典研究叢書第6巻、大東出版社、1998年）
- * 12 『古聖教目録』（『中国・日本經典章疏目録』七寺古逸經典研究叢書第6巻、大東出版社、1998年）には「楞伽疏上中下 義寂」とみられる。
- * 13 七寺所蔵本では「二十唯識論疏二卷」ではなく「二十唯識論疏一卷」、「唯識要集十三卷」ではなく「唯識要集十二卷」というようで両本収録本の巻数が五箇所で見られる。また七寺所蔵本では「種性差別集三卷」とあるが『翻刻では誤写として「種性差別集三卷」とし、「（唯識論）同貶曇升卷」とあるのを「貶曇」とする。
- * 14 『山王院蔵書目録』（『叡山学報』第二分冊所収、1979年5月復刻、初版1937年）
- * 15 佐藤哲英「山王院蔵書目録に就いて-延長三年筆背連院蔵本解説」（『叡山学報』前掲書所収）

附設「十世紀初までの目録類にみられる新羅諸師章疏」

僧名	古文書 (正倉院編年文書)	審詳請米経録	華嚴宗章疏并因明録	天台宗章疏	三論宗章疏	法相宗章疏	律宗章疏	山王院藏書目録 (顯教書目録)
(A) 1 円光	(大方等如來藏經私記3巻)	(大方等如來藏經私記3巻)						
2 円河	因明疏2巻 因明論疏2巻 大因明論疏2巻 因明正理門論疏2巻 因明正理門論記2巻 觀所縁々論疏1(2)巻 解深密經疏10巻 心經疏1巻 多心經疏1巻 般若心經疏1巻 摩訶般若經疏1巻 摩訶般若波羅蜜多心經疏1巻 仁王經疏3(5)巻 百法記1巻 百法論疏1巻 二十唯識疏2巻 唯識疏10巻 唯識測法師10巻 円測師唯識疏 唯識論疏1(10・15)巻 唯識論門測師疏6巻 唯識論測法師疏20巻 成唯識論疏10(16・20)巻 成唯識論測法師疏 無量義經疏3巻 (六十一見章1巻) (六十二見章1巻)	觀所縁縁論疏1巻 唯識論疏9巻 因明正理門論記2巻 (般若心經疏1巻) (六十二見義1巻)	理門論疏2巻		広百論疏10巻	仁王般若疏3巻 般若心經疏1巻 解深密疏10巻 無量義經疏3巻 百法論疏1巻 二十唯識論疏2(1)巻 唯識疏10巻 觀所縁縁論疏2巻 六十二見章1巻	無量義經疏3巻 因明正理門論疏2巻	
3 神昉	(十輪經抄2巻)					▲大衆十輪經抄2巻 ●唯識要集13(12)巻 ●種性差別集3巻		
4 元曉	華嚴經疏8巻 元曉師花嚴疏10巻 花嚴論疏元曉師 兩卷无量寿經宗旨1巻 勝鬘經疏2(3・6)巻 般舟三昧經略記1巻 般舟三昧經略疏1巻 入楞伽經疏7(8・13)巻	華嚴經疏10巻 起信論疏2巻 起信論別記1巻 勝鬘經疏2巻 楞伽經疏7巻 中辺分別論疏4巻 大衆銀行門2巻 雜集論疏5巻	金剛三昧論3巻 〈華嚴疏10巻〉 〈華嚴綱目1巻〉 起信疏2巻 起信別記1巻 起信私記1巻 楞伽經疏7巻 勝鬘經疏2巻		起信論疏2巻 三論宗要1巻 ●広百論旨帰1巻 ●広百論概要1巻 ●掌珍論科簡1巻 ●〈中論疏6巻〉	金剛般若疏3巻 解深密疏3巻 般勝王經疏8(3)巻 勝鬘經疏2巻 楞伽經疏7巻 不增不减經疏1巻 ●瓊伽論中夾4巻 中辺分別論疏4巻	梵網疏2巻 梵網持犯要記1巻	因明論疏1巻 (法華宗要1巻) (判比量論1巻) ▲〈(花嚴文義綱目1巻)〉

<p>入楞伽疏 8 卷 楞伽經疏 7 (8・13) 卷 維摩經疏 3 卷 解深密經疏 3 卷 深密經疏 不增不減經疏 1 卷 金光明經疏 8 卷 最勝王經疏 8 卷 金鼓經疏 8 (15) 卷 金剛般若經疏 3 卷 法華要略 1 卷 法華略述 1 卷 法華疏 5 卷 金剛三昧(經)論 3 卷 金剛三昧經論疏 3 卷 涅槃經宗要 1 卷 涅槃經疏 5 卷 梵網經疏 2 卷 梵網經私記 1 卷 梵網經菩薩戒本私記 1 卷 梵網經上卷疏 1 卷 菩薩本持犯要記 1 卷 菩薩戒本持犯要記 1 卷 摩訶止持論簡 1 卷 瓊伽抄 5 卷 瓊伽論抄 5 卷 維摩論疏 5 卷 維摩論簡 1 卷 弁中辺論疏 4 卷 中辺分別論疏 4 (3) 卷 三論玄義 撰大衆論抄 4 卷 世親撰論疏 4 卷 梁琪論疏抄 4 卷 十門和諍論 2 卷 起信論疏 2 卷 元魏師起信論疏 2 卷 宝性論宗要 3 卷 起信論別記 1 卷 元魏師起信論別記 1 卷 起信論記 1 卷 一道理 1 卷 一道理章 1 卷 広百論摘要 1 卷 二障義章 1 卷</p>	<p>梁琪論疏抄 4 卷 世親撰論疏 4 卷 三論玄義 1 卷 広百論摘要 1 卷 法華略述 1 卷 (兩卷信長對經宗旨 1 卷) (大惠度經宗要 1 卷) (菩薩本持犯要 1 卷) (金鼓經疏 8 卷) (判比丘論 1 卷) (金剛三昧論疏 3 卷) (起信論私記 1 卷) (一道理 1 卷) (二障章 1 卷) (宝性論料簡 2 卷) (十門和諍論 2 卷) (楞伽經宗要 1 卷) (本業現略疏 2 卷) (般若三昧經略記 1 卷) (不增不減經疏 1 卷) (涅槃經宗要 1 卷) (法華經要略 1 卷) (六觀殿發菩提義 1 卷) (初章観文 1 卷)</p>	<p>中辺分別論疏 4 卷 二障章 1 卷 一道理 1 卷 十門和諍論 1 卷 法華宗要 1 卷 判比丘論 1 卷 広百論摘要 1 卷</p>			<p>(二障章 1 卷)</p>		
---	--	---	--	--	------------------	--	--

	二部章 1 卷 大衆二尊疏 1 卷 大衆觀行門 3 (1) 卷 六觀觀心觀心觀心觀心 1 卷 因明疏 1 卷 (華嚴綱目 1 卷) (兩卷无量壽經宗要) (般若三昧經略疏 1 卷) (註勝覺經疏 2 (4) 卷) (楞伽宗要論 1 卷) (楞伽經宗要 1 (2) 卷) (楞伽宗要) (不增不放經疏 1 卷) (維摩宗要 1 卷) (維摩經宗要 1 卷) (大思度經宗要 1 卷) (般若宗要 1 卷) (大般若宗要 1 卷) (般若心經疏 1 卷) (法花宗要 1 卷) (觀世音菩薩心經疏 1 卷) (瓔珞經疏 2 卷) (中辺論疏 4 卷) (起信論私記 1 卷) (二諦章) (三論宗要 1 卷) (三論宗要記 1 卷) (宝性論料簡 1 (3) 卷) (判比量論 1 卷) (六觀觀心觀心觀心觀心 1 卷) (初章觀文 1 卷) (阿彌陀經疏 1 卷)							
5 義湘	(一乘法界圖 1 卷)	(一乘法界圖 1 卷)						
6 法位	无量壽經疏 2 卷							
7 懷輿	懷輿師金光明經疏 懷輿師最勝王經疏 金光明經疏 8 卷 最勝王經懷輿疏 最勝王經疏 5 卷 金光明最勝王經疏 5 卷 金光明最勝王經略贊 5 卷 俱舍論抄 4 卷				涅槃疏 14 卷 最勝王經略贊 12 (5) 卷 ●十二門陀羅尼經疏 1 卷 弥勒上生經疏 2 (3) 卷 顯揚論疏 8 卷 ●唯識比量 20 卷 ●瑜伽論疏 36 卷		(弥勒經疏 1 卷)	

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について (福士)

	解深密經疏5卷 深密經疏5卷 成唯識論疏 顯揚論撰異述贊 顯揚論述贊16卷 顯揚論述記8卷 顯揚論疏10卷 大灌頂經疏2卷 大般若經疏4卷 涅槃經撰異師疏12卷 涅槃經疏14(24)卷 涅槃經述贊14卷 法華經疏10卷 弥勒經疏3卷 弥勒經述贊3卷 弥勒菩薩經述讚3卷 無垢稱經疏6卷 瑜伽菩薩地疏							
8 智仁	十一面經疏1卷 顯揚正教論疏10卷 顯揚論疏10卷 顯揚論智仁疏10卷 四分律抄10卷 仏地論疏4卷					顯揚疏10卷 仏地論疏4卷	●六卷鈔記10卷	
9 令因	解深密經疏10卷(全因とある) 靈因師俱舍鈔6卷					解深密疏11卷		
10 行遠	(瑜伽料簡1卷)							
11 順愷	大毘婆沙心論抄10卷							
12 道澄	大般若經題目1卷 大般若經目1卷 唯識論疏10卷 唯識論集14卷 唯識要集13(14)卷 唯識論要集10卷	(唯識要集13卷)	●正理疏2卷			唯識要集14卷		
13 勝莊	勝莊師最勝王經疏 勝莊師金光明疏8卷 梵網經疏2卷 起信論問答1卷 仏性論義1卷		最勝疏8卷				●因明正理門論述記2卷	

十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について(福士)

14玄一	<p>願往生經記1卷 法花經疏10卷 兩卷無量壽疏2卷 (唯識概要私記2卷)</p>	<p>(概要私記2卷)</p>						
15般若	<p>大般若經附要1卷 涅槃經疏4(5)卷 涅槃經綱目1卷 涅槃經疏16卷 法花經料簡1卷 梵網經疏2卷 梵網經文記2卷 梵網文記2卷 理趣函眼1卷 兩卷經疏3卷 兩卷無量壽經疏3卷 (法花論述記1卷) (法花經論述記1卷) (馬鳴生論疏1卷)</p>	<p>涅槃經疏5卷 兩卷經疏3卷 (涅槃經綱目2卷) (法花經料簡1卷) (法花論述記1卷) (大般若經綱要1卷) (馬鳴生論疏1卷)</p>				<p>般若理趣分兩費1卷 涅槃經疏5卷 梵網經疏2卷 無量壽經疏3卷 ●唯識未詳決2卷 ●大衆經林章12卷 ●楞伽經疏3卷</p>	<p>梵網疏2卷</p>	<p>大般若綱要1卷 菩薩成本疏2卷 ●(法花經疏記2卷) (法華論述記2卷)</p>
16大衍	<p>起信論疏1卷 大方等如來經疏2卷 (大方等如來疏疏2卷)</p>	<p>起信論疏1卷</p>	<p>起信疏1卷 起信疏1卷 ●起信記1卷</p>					
17裘貝	<p>華嚴文義要決1卷</p>		<p>華嚴文義要決5卷</p>					
18明島	<p>(海印三昧論1卷)</p>		<p>海印三昧論1卷</p>					
19道倫・道倫	<p>大般若經疏1卷</p>					<p>●瑜伽論記24卷</p>		
20大賢	<p>梵網經古述記1卷 (成業論記1卷)</p>		<p>●理門古述1卷</p>		<p>●掌珍論古述1卷</p>	<p>▲梵網經古述2卷</p>	<p>梵網古述記2卷</p>	<p>●(菩薩戒宗要1卷) (梵網經古述2卷) (梵網經古述1卷)</p>
21玄隆	<p>玄隆師作章 玄隆法師章 玄隆師章1(4・11・16)卷</p>							
22珍葛			<p>●華嚴孔目記6卷</p>					
23淨遠						<p>●要沙論疏14卷</p>		
24審群	<p>起信論疏1卷 審群師經疏1卷</p>							
		167部中49部	188部中25部	158部中0部	69部中7部	169部中42部	62部中5部	504部中15部

(B) 不詳僧								
1 観智	識身足論疏12卷							
2 惠景	四分律疏6卷 撰大衆論義章3卷 瑜伽抄36卷 瑜伽抄記36卷 瑜伽論抄36卷							
3 玄範	解深密經疏3卷 深密經疏3卷 解深密經範法師疏2卷 弁中辺論疏3卷 対法疏 対法論疏13卷 雜集論疏10卷 仁王般若經疏2卷 仁王經疏2卷 撰大衆論疏7卷 能斯(金剛)般若經疏2卷 能斯金剛般若疏2卷 正理門論抄1卷 法花疏8卷 法花經玄範師疏8卷 法花經疏8卷 法花疏6卷 妙法蓮花經玄範疏	因明正理門論抄1卷 雜集論疏10卷 (撰大衆論疏7卷)	●正理疏1卷			●能斯金剛般若述贊3卷 仁王般若疏2卷 解深密疏10卷 法華疏8卷 ●無垢称經疏6卷 撰大衆論疏7卷 対法論疏10卷 弁中辺論疏6(3)卷	因明正理門論疏1卷	
4 神席	観所縁々論疏1卷 撰大衆論疏11卷 新撰大衆論疏11卷 撰論疏	(撰大衆論疏12卷)				観所縁々論疏1卷 撰大衆論疏11卷		
		167部中53部	188部中26部	158部中0部	69部中7部	169部中52部	62部中5部	504部中16部

* 塗りつぶしは異名同本と考えられる著述、()内の著述は当該目録に作者名が無記の著述、< >内の著述は同系目録内で問題のある著述、●を附す著述は古文書にみられず目録では初出の著述、▲を附す著述は初出の可能性もあるが同本異名として既に前出の可能性が高い著述である。尚、(B)不詳僧は出身因が不明な僧で今後の研究課題でもあるため本表に附した。